

2. 火山の概況

(平成 16 年 12 月 30 日 ～ 平成 17 年 1 月 5 日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では噴煙活動が継続し、火映が観測された。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は 3。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは 2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。

口永良部島では地震がやや多く発生した。

諏訪之瀬島では爆発が発生した。

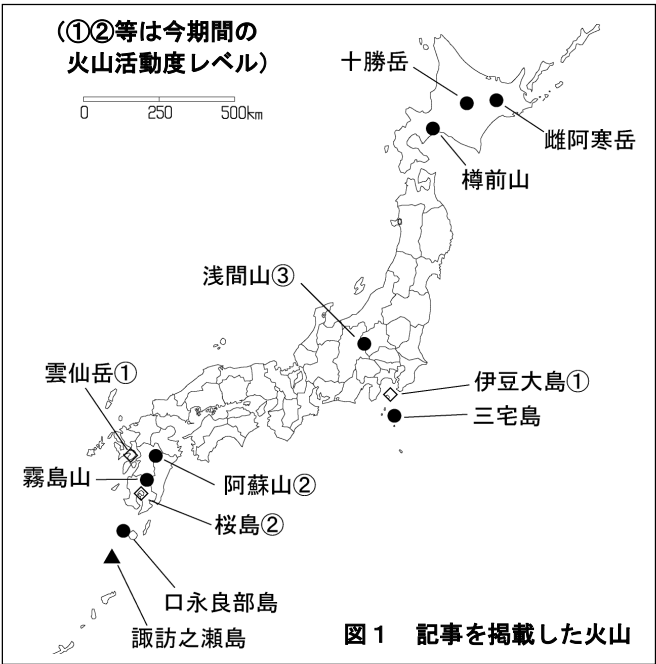


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	草津白根山	三宅島	霧島山	口永良部島	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号								
1	12/30-1/5	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		●	●	●	▲
53	12/23-12/29	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		●	●		▲
52	12/16-12/22	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		●	●		▲
51	12/9-12/15	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●		▲	●		
50	12/2-12/8	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	◆	▲	●		◆

注 1 記号の意味
▲：噴火した火山
●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
◇：その他記事を掲載した火山
①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200m で推移した。

● 樽前山 [熱]

A 火口および B 噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● 浅間山 [噴煙・火映・鳴動・地震・微動] レベル 3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約 500m まで上がった。火映が 1 月 2 日、3 日及び 5 日に山麓の高感度カメラで観測され、5 日には火口の南約 8 km の軽井沢測候所から

肉眼でも観測された。また、3日に火口の北北東約4kmで弱い鳴動が聞こえたとの通報があった。これは火口内の噴気の噴出音が風下側で聞こえたものと推定される。

火山性地震は1日当たり57～82回観測され、火山性微動は同0～2回観測された。

◇ 伊豆大島 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙・地震]

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約600mまで上がった。

火山性地震は1日当たり8～41回観測された

● 阿蘇山 [噴湯現象・微動] レベル2（やや活発な火山活動）

5日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は緑色、量は約8割であった。噴湯現象が湯だまりの南西側で観測された。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約400m（前期間500m）であった。

孤立型微動の発生回数は441回であった（前期間は433回）。火山性微動は発生しなかった（前期間は継続時間の短いものが1回）。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気・微動]

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、12月30日、1月2日及び5日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上約300mであった。また、31日に振幅の小さな火山性微動が1回発生したが、噴気活動、地震活動等その他の観測データに特に変化は見られなかった。

◇ 桜島 レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火はなかった（前期間もなし）。2日に火口上約400mの灰白色の噴煙が観測されたが、それ以外には有色噴煙は観測されず、噴煙活動も比較的低調であった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

● 口永良部島 [地震・微動] <期間外の記述を含む>

火山性地震が2日から増加し、3日に28回、4日に27回観測された。火山性地震の日回数が20回を超えたのは2004年3月13日以来である。

また、12月20日頃（期間外）から火山性微動が時々発生するようになり、今期間の回数は13回であった。

島内に設置した監視カメラによる観測では、新岳及び古岳の噴気活動に変化はなかった。

▲ 諏訪之瀬島 [爆発・微動]

2日及び4日に噴火が各1回発生し、いずれも爆発的噴火（以下、爆発）であった（前期間の爆発は4回）。監視カメラによる観測では、爆発時の噴煙の状況は雲もしくは夜間のため不明であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所（以下、出張所）によると、2日に火山灰を含む噴煙が火口縁上約600mまで上がっているのが確認された。出張所によれば、期間中、集落（御岳の南南西約4km）で降灰はなかった。

火山性微動は、12月30日及び1月1～4日に時折継続時間の短いものが観測されたが、今期間の回数は13回で前期間（31回）より減少した。連続微動は観測されなかった。

表 2 火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第 192 号	30 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 193 号	31 日 16:00	
	火山観測情報第 1 号 ↓（1 日 1 回発表）	1 日 16:00 ↓	
	火山観測情報第 5 号	5 日 16:00	
三 宅 島	火山観測情報第 730 号 ↓（1 日 1 回発表）	30 日 16:30 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第 731 号	31 日 16:30	
	火山観測情報第 1 号 ↓（1 日 1 回発表）	1 日 16:30 ↓	
	火山観測情報第 3 号	3 日 16:30	
	火山観測情報第 4 号 ↓（1 日 2 回発表）	4 日 09:30 ↓	
	火山観測情報第 7 号	5 日 16:30	
口永良部島	火山観測情報第 1 号	4 日 14:30	火山性地震が増加。